

第4回

布育のすすめ①簡単布おもちゃ作り～つながるドーナツ～



講師 さとう ゆきこ 氏

子どもは遊びの中で学ぶ

子どもは、いろいろな遊びをする中で学びます。大人は、遊ぶという暇つぶしと思うようなところがあるかもしれません。しかし、子どもの遊びは育っていく上で大切なものなので、決して暇つぶしではありません。

おもちゃの役割

環境の一つとしておもちゃがあり、それで遊ぶことで、身体能力、認知、知識、言葉、ルール、創作、知的好奇心、コミュニケーションなど様々な力がついていきます。

適切なおもちゃがあることで、豊かな経験をして、心と体の発達が促され、成長していきます。

何も無いところでは、なかなか遊びは始まらないのですが、おもちゃがあることで「やってみよう。」という気持ちになり、遊びが始まります。それには、子どもの年齢や月齢などの発達に合わせたものや子どもの興味に合った適切なおもちゃが必要です。

生活と遊びは、両輪

保育の現場は、子どもの生活の自立の面も支えています。遊びと生活は別々のものではなく、どちらも同じように育っていくものです。しかし、生活面は、子どもの【できている】【できていない】が、遊びよりもはっきりしてしまうものです。保育者は、そこを「なんとかしなくては。」「できるようにさせたい。」と、思ってしまいがちです。

大人が教えるだけでは身につかない力がつくのが、遊びです。例えば、指先を使うことだと箸があります。箸が上手に使えないと、食事中に集中でき

なくなり、出歩きたくなったり、途中で遊びたくなってしまったりします。

子どもの手指の発達がまだ箸をうまく持てるまでにはなっていないのに、食事中に箸の練習をするのでは、あまり身につきません。遊びの中で、指で粘土をつまんだり、ねじったり、ビーズのひも通しなどをして、楽しみながら5本の指を存分に使うことで、発達していきます。生活と遊びは両輪で発達していくもので、どちらか一方を追い求めるのではなく、どちらもバランスよく取り入れていくことで子どもたちが健やかな成長をしていきます。これは、保育者だけでなく、子どもの成長のためにしつけやマナーに一生懸命になり過ぎてしまっている保護者にもわかってほしいことです。

つながるドーナツを作ろう

◇C型(2個) 1個 4～50分で作ることができます。

◆材料

- ・布 (14cm角) 4枚
(伸び縮みしない綿 100%のもの)
ポンデリング風【クリーム色+クリーム色】
ストロベリー【クリーム色+ピンク】
- ・手芸綿(ポリエステル)
- ・糸(なるべく縫ったときに目立たない色のもの)
今回で使う素材は、洗濯可能なものなので、遊んで汚れたら、洗濯をしてよく乾燥させ、繰り返し遊ぶことができます。

作り方

① 布2枚を重ねる。

- ・ポンドリング風＝クリーム色2枚
- ・ストロベリー＝クリーム色＋ピンク

待ち針を打つ。

待ち針を打つ場所は、縫い始めと縫い終わりとその対角線上です。後で綿を入れるために開けておく口を作っておきます。待ち針を打つときのコツは、針の先をたくさん布から出さないことです。そうすることで、縫っている最中に針先で指を刺してしまうことを防ぐことができます。布を持ったときに、1枚ずつめくれてしまうようだと待ち針が足りない証拠です。そのままの状態で縫ってしまうと、ずれたまま縫い合わせてしまうこともあるので、布を持ったときに重ねたままの状態かどうか確認しましょう。

② 返し口を残し、線上をなみ縫いする。(糸は2本どり)

刺しゅう糸の束ねた糸の中から1本を取り出す方法は、束ねたまま2つ折りにして、真ん中から1本を引き抜くようにします。端から抜こうとすると絡まってしまいますので、注意してください。

本日は、なみ縫いでなるべく細かく縫っていきます。裁縫に慣れている方は、1本どりの半返し縫いもおすすめです。

布に下書きをするのに便利なのが、フリクションペンです。今回は、ボールペンタイプのものではなく、サインペンタイプのフリクションペンを使いました。フリクションペンの特徴は、摩擦熱を加えると消えるところです。ですから、下書きをし、完成したらアイロンやドライヤーの熱を加えるときれいに消えます。

③ 縫い代を5mm残し、周囲を切り落とす。縫い代に切り込みを入れる。

今回は、作りたいものの形にしてから縫うのではなく、布の形のまま縫い、その後切ってから形にする方法です。今回のような縫い代が短いものは、この方法がおすすめです。

ドーナツのCの形の円の欠けたところに、はさみを入れ、真ん中の円を切り取ります。その後、まわりも縫い代を残し、切ります。縫い代に縦に切り込みを入れます。なるべく狭い間隔で切るようにするとよいです。縫っていないところは、1か所切り込みを入れます。そして、下書きの線に沿って折り、爪で折り目をつけておきましょう。このときに、せっかく縫った糸まで切らないように気をつけてください。万が一、糸まで切ってしまった場合は、切ってしまった箇所を前後を大幅にとって縫うようにしましょう。

④ 返し口から裏返す。

少しずつ布をつまんで引き出します。ピンセットなどを使うとうまく布を引き出すことができ、ひっくり返すことができます。

⑤ 手芸綿を詰める。

先端からピンセットを使って綿を詰めていきます。丸めた綿を入れてしまうと、ぼこぼこした形になってしまいますので、細長くした綿を少しずつ詰めていきましょう。

⑥ 返し口を「はしごまつり縫い」で閉じる。

どのような閉じ方でもよいのですが、はしごまつり縫いは縫い目が目立たず、見た目がきれいなのでおすすめです。詳しい縫い方は、動画をYouTube「布育チャンネル」でも配信していますので、気になる方はご覧ください。

これで、ストロベリードーナツは、完成です。

ポンドリング風 作り方

⑦ 8等分になるように、糸をかけ、ギュッと結ぶ。

小さく糸をかけ、糸を一周巻いてぎゅっとくびれさせます。同じところにもう一度針を刺して糸をかけ、もう一周巻きます。玉止めは、内側に作れば目立ちません。

◇アレンジ

今回は、両面クリーム色の布にしましたが、それに茶色のフェルトで作ったものを部分的にかぶせるとチョコレートがかかったドーナツのようになります。ピンクとクリーム色の布で作ったものは、ピンクの方に濃いピンクの刺しゅう糸でフレンチナッツステッチを付けると、イチゴクランチのようになり、さらにおいしそうになります。同様に茶色の布に黄色のフレンチナッツステッチをつけると、ゴールデンチョコレートドーナツ風になります。茶色の布に白のフェルトをつけると、ホワイトチョコレートがかかっているようになります。色を変えて作ることで、いろいろな種類のドーナツになり、見ても楽しいものが出来上がります。

◇遊び方

～つながる～

今回のドーナツは、Cの形をしているので、ドーナツとドーナツを簡単につなぎ合わせることができます。力の強くない乳児でもつなげたり、引っ張って外したりできます。たくさんつなげて遊ぶのも楽しいです。いろいろなところにはめられますので、腕にはめたり、ベビーサークルのような棒状のところたくさんはめたりして遊んでも楽しいです。

～ドーナツ屋さんごっこ～

ままごとのお皿を使ったりするだけでなく、100円ショップで売っているトレイやトンゴや空き箱を使うことで、お店屋さんらしくなります。他の道具があるだけで、ドーナツ一つでも楽しい遊びが豊かに広がります。特に、女の子はエプロンや帽子などのコスチュームがあるとお店屋さんになりきって楽しめます。お店屋さん役とお客さん役をすることで、楽しいやり取りが始まり、4～5歳児になると「～したら、どうかな。」「～したらもっと楽しそう！」と、楽しくなるためのアイデアを出し合うようになります。子どもが自分たちで遊びを創り出す力を育てるきっかけになります。最初からすべての道具をそろえるのではなく遊んでいるうちに少しずつ必要な道具を考えてそろえていく方が楽しいです。お店にあるメニュー表を遊びに使っても本格的になり、遊びが盛り上がります。

◇アレンジ

ドーナツ屋さんごっこの他にもハンバーガー屋さん、アイス屋さん、お寿司屋さんを作ることができます。いろいろな食材をフェルトや布の端切れを利用して作っていきます。トマト→赤、レタス→黄緑、たまご→黄色のように、おいしそうな色で考えていくとイメージしやすいかもしれません。

クラスごと素材を作るのではなく、園の職員で一人1個ずつ作り、園でドーナツごっこ1セットハンバーガーごっこ1セットという風に作り、クラスに貸し出しをする形にすると、たくさん作らなくてもよくなり、毎日置いてあるわけではないので新鮮さが良いのではと思います。

◇大量生産のコツ

・シンプルなデザイン、型紙で作りましょう。

子どもはいろいろなものに見立てて遊びます。子どもの想像力に任せて、あまり作りこみ過ぎず、シンプルなものにしましょう。

- ・思い切って裁断までやってしまおう。

大きな布に、ドーナツの型を書いていくのは大変です。最初に、大きな布を14 cm×14 cmの大きさにたくさん切っていきましょう。扱いやすい大きさになると作業が捗ります。

- ・型紙は厚紙で作っておこう。

大量生産するためには、型紙を厚紙で作ることで、作業がしやすくなります。

- ・ミシンを利用しよう。

園の職員間にミシンが得意な人がいれば、縫う作業だけミシンで一気に済ませ、後の行程は時間がある時にこつこつと手作業で進めるという方法もあります。

◇「新しいおもちゃ」「珍しいおもちゃ」へのトラブルを乗り越えよう！

子どもは、新しいおもちゃが大好きです。目新しいおもちゃが保育室にあるとみんな遊びたくて取り合いになってしまうこともあります。保育者は「せっかく新しいおもちゃを用意したのに、トラブルになるなら出さない方がよかった。」と、思ってしまうこともあるのではと思います。子どもの人数分用意すればトラブルもなくなるのかもしれませんが、それでは保育者の負担が大きくなってしまいますし、子どもたちのためにもなりません。一つの方法として、新しいおもちゃだけでなく、普段からあるままごとと一緒に遊ぶなどして、他の遊びに組み合わせて遊ぶことをお勧めします。それから、お店屋さんごっこのようにお客さんが持ったり、店員さんが持ったりするようなやり取りできる遊びにすることでトラ

ブルが減ったりします。子どもたちは、人数より少ないおもちゃで遊ぶことで、順番やルールを学んでいきます。年齢や発達段階に合わせて、機会を捉えて、みんなで楽しく遊べるためのルールを伝えていけるとよいです。

◇ごっこ遊びの大切さ

想像を膨らませながら、役割を決めたり、場所を決めたりしていくと、遊びはどんどん盛り上がっていきます。ストーリーを考えて、そのイメージを友達と共有することでお互いの気持ちを伝え、折り合いをつけたりするようになり、コミュニケーション力が身につきます。

子どもはごっこの世界の役になりきっていると、普段使わないような言葉になり、「少々お待ちください。」「かしこまりました。」などと自分が経験したお店屋さんの言葉遣いになります。ごっこ遊びの中で、いろいろな言葉を覚えます。自分ではない人間を演じることは、乳幼児期の子どもたちにとって、とても貴重な経験なのではないかなと思います。

保育者は、子どもにとって学びとなる遊びのために、場所や時間を保障しなくてはなりません。すべて保育者が設定するのではなく、子どもたちが考えて遊びを膨らめていけるよう工夫していくことが大切です。



第4回 焼津市保育者資質向上研修会
令和4年9月22日(木)
オンライン(各園)・焼津市役所大会議室1B